

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600517		
法人名	社会福祉法人 年長者の里		
事業所名	グループホーム八幡	Aユニット	
所在地	福岡県北九州市八幡東区大蔵3-2-1		
自己評価作成日	令和1年11月22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和1年12月16日	評価結果確定日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から17年が経過した。入居期間10年を最長に平均入居年数が、3年7ヶ月と長期間安定的に安心できる暮らしを提供している。年を重ねて心身の状態が変わっていても、その方らしい、いつもの暮らしを少しでも長く続けていただくため、ご入居者、ご家族、職員が共に考え、工夫していくことに取り組んでいる。「地域密着型」の原点を忘れずに、地域に外出したり、地域を招いたイベント等を開催し、地域交流を実現している。また、大蔵地区で開催される徘徊模擬訓練に参加して、一般参加者として共に取り組み、地域貢献に還元している。また、敷地内の他事業所・他職種とも連携を図りながら、ご入居者の安心に寄与している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地内(約9千坪)には、多種の介護事業所やクリニック(認知症疾患医療センター)が集積し、複合施設の3階に位置する「グループホーム八幡」は開設して17年目を迎える歴史を持つ。入居者の方々の挨拶と自己紹介で始まる運営推進会議の開催や、スケールメリットを活用した同法人他施設のイベント参加、地域の伝統的な行事(酒蔵開き・起業祭等)参加を恒例行事とする等、社会参加や地域生活の継続を大切にしている。法人として地域との防災協定を締結し、昨年台風時には、法人施設が地域の方の避難場所として活用される等、地域拠点としての役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である『地域貢献』を基本にしながら、ホームの理念に「地域との密接な関係作り」を掲げており、職員はその精神に則って介護を行っている。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念を掲げている。新規採用時の法人代表者の講話やオリエンテーション、研修等を通じて共有を図り、具現化に取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園園児との交流・地域の酒蔵開放イベント・起業祭等参加している。また、傾聴ボランティア・実習生を受け入れ、交流している。	今年度は感染対策等にて実施できなかったが、例年、地域の伝統行事(起業祭・酒蔵開き)等に入居者の方々と共に参加している。法人として広大な敷地内にて、多様な福祉サービスを運営しており、他事業所の季節行事やイベントにも気軽に参加することが出来る。地域の徘徊模擬訓練にも参加・協力している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症に関する知識など発信、報告している。また、大蔵地区で開催された徘徊模擬訓練にも講師として又地域の一員として参加している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、自己評価の配布や、各種取り組みに関して報告を行い、意見や感想を取り入れている。	入居者の方々の挨拶や自己紹介から始まる運営推進会議には、家族や町内会長、地域包括支援センター担当者、他事業所介護支援専門員、実習生等の参加を得ている。運営状況の報告や地域情報の共有の機会としても活用し、意見や提案を運営に反映させるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員を運営会議の委員として参加して頂いている。2ヶ月ごとの運営推進会議開催の際には、意見交換を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ており、事業所の実状について情報共有に努めている。研修や各種手続き、困難事例への対応、不明な点の問い合わせ、空室状況の報告等にて連携を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な職員会議の中で、身体拘束について勉強会を開催している。	身体拘束適正化に向けた指針の作成や委員会活動、研修等を通じて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員は事業所内を巡回したり、運営推進会議の中でも居室状況を見学してもらっている。身体的拘束のみならず、言葉かけや対応等の不適切なケアへの意識を高め、より良い実践へと結び付ける取り組みがある。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員会議の中で、法人のマニュアル等も活用しながら、虐待について勉強をしている。また、新聞記事等も取り上げて、虐待防止に関して自己啓発も促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる。必要に応じて、職員は成年後見制度に関する研修に参加し、そこで学んだことを職員会議に反映させている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、これまでの活用実績や法人内の事例の共有・専門職の連携等を通じて、必要時には活用に向けた支援が行える体制にある。資料の整備や研修実施により、職員が学ぶ機会を確保している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には十分な時間を取り、契約内容について不明な点などは、気軽に聞くことができる姿勢をとっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置している。また、面会の際には積極的にご家族との接触を図り、そこで出た意見を運営に取り入れている。	毎月、発行される通信では、行事予定や日常の様子を写した写真、各担当者によるコメントが記され、家族との情報共有に努めている。満足度調査実施やオンブズマン制度を重要事項説明書の中で案内する等、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じて、管理者に運営上の意見や提案をおこなっている。それを基に「風通しの良い職場」を作っている。	月例の職員会議を開催し、情報共有や職員意見・要望の収集に努めている。参加できない職員には、伝達を行い、情報共有を徹底している。事案によっては法人の会議で検討され、フィードバックに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の都合を出来るだけ反映させた勤務体制としている。また、資格取得(介護福祉士・ケアマネジャー)が出きるよう休日等配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法律に則った募集・採用を行っている。定年後の再就職として介護している者も多くなる。勤続年数10年以上の職員も多く、行っている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。新規採用者及び現任者の研修体制の確立や資格取得に向けたサポート、福利厚生の充実等、意欲を持って働けるよう就業環境の整備に努めている。また、職員の相談窓口を設置する等、メンタルヘルスにも留意している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時に必ず人権研修を行っている。	新規採用者の研修時や、内部研修の年間計画の中に位置付けながら、職員への人権教育、啓発に努めている。法人として、マナーアップ研修に力を入れ、社会人としての資質向上にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はその要望も考慮しながら、様々な研修に参加する機会を確保している。それを日常業務に反映させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北九州高齢者福祉事業協会地域密着サービス部会に所属し、他の同業者と定期的に交流・意見交換・見学会を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方には、他入居者との接点を増やしたり、職員とのなじみの関係が築けるように、積極的に接している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用がはじめての方が多く、ご家族も不安を抱えていらっしゃる方が多い。電話や面会を通じて、本人の様子を細かく伝えている。また、要望・意見は遠慮なく言って頂けるような雰囲気を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者の心身状況や生活歴、趣味、得意分野等を考慮し、「その時」の支援を見極め、家族や看護師・インフォーマルサービスなどを加味した上で連携を取り、サービスの提供に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの心身の状態に応じた、暮らしの中の作業をして頂いている。掃除や洗濯等職員と共にやる事を基本としている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設運営に協力していただき、個別外出や起業祭など、一緒に介護を行う場面が作れるようレクリエーションにも参加頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に面会者の制限はしていない。事前の連絡があれば宿泊も可能としている。	広大な敷地内に多様な福祉施設が集積しており、お釈迦様の生誕を祝う仏教行事では甘茶を注いで参拝したり、地元の酒蔵開きや起業祭参加等を恒例行事とされている。家族や知人の来訪する機会も多く、ともに歓迎し、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席位置など、孤立しなくて済む環境を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年の退去理由は、当ホームでの看取りや入院後の死去が多い。その家族の求めに応じて、ご家族の心身の負担軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で希望などを言えない方が多い中、日ごろの生活や一瞬の「笑顔」をヒントに、入居者が求めているものを探るようにしている。	入居時より、家族や関係者も含め、これまでの暮らしぶりや現状の心身状態等、様々な視点から情報収集に努めている。日常の言葉や表情の変化、行動等から推し測り、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握していないキーパーソンも多くいる。ケアマネジャーから情報を取得したり、日ごろの会話の中で、入居者の歴史、サービスに至った経緯を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、一人ひとりの現状の把握をしている。また、日々変化する状態像について、申込ノート等を通じて、情報を共有・把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議を通じて、全職員の意見を交換・集約している。その上で、カンファレンスには原則ご家族に出席頂き、ご家族・ご利用者の要望に沿ったケアプランの作成に努めている。	散歩や外気浴、個別の生活リハビリ等を具体的に介護計画に位置付け、自立支援に向けてポジティブな視点が確保された介護計画を作成している。計画は行動計画と連動させ、日々の確認やカンファレンス・モニタリングを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一瞬の会話や、日常の様子を細かく記録しており、その内容を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の同一敷地内に高齢者施設・介護事業所があり、必要に応じて他職種との連携にとり取り組んでいる。また、そのケアに関する要望等について、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は近隣を散歩し、地域の人と挨拶をする関係が保たれている。また盆踊りに参加したりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方は、併設の医院が主治医になっており、2週間に一度は訪問診療を受け、日ごろから支援を受けることができている。	事業所が位置する複合施設1階には、認知症疾患医療センターとしての指定を受ける協力医療機関があり、訪問診療や受診等を通じて、本人や家族、職員が安心できる体制をとっている。また、訪問看護による24時間の連絡体制も確保され、日々の健康管理や迅速な対応に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックが行われ、状態説明や相談を行い、健康管理に努めている。また、24時間連絡が取れる体制を取っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員やご家族との情報交換は密に行い、職員はできる限りお見舞いに行くようにしている。入院受け入れがスムーズに運ぶように協力病院と契約を交わしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を示し、家族に同意を得ている。看取り介護には、医療との連携が不可欠であり、日ごろから医師との密接な関係を作る努力をしている。ご家族にはホームでは対応できない事柄を入所時に説明している。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとに事業所としての方針を説明し、意向を確認している。これまでに看取りの実績もあり、状況の変化に伴い、その都度の意向確認や関係者間の話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員を対象に訓練や講習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、入居者も避難場所までに避難を行っている。法人全体として地域と防災協定を締結すると共に、運営推進会議等を通じて、協力をお願いしている。	各種災害に対応するマニュアルを整備し、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、土砂災害を想定した図上訓練を継続し、地震訓練も予定されている。法人として、地域との防災協定を締結し、実際に台風時に地域の方の避難を受け入れた実績もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員への基本的な接遇や個人情報保護の取り扱い等は、入職時の研修やマナーアップ研修を通じて実践している。	新規採用時の研修や、現任者へのマナーアップ研修を継続して実施し、言葉かけや対応、社会人としての資質向上に向けて熱心に取り組んでいる。個別の時間の流れや居場所の確保、プライバシー空間としての居室のあり方等、個人の理解と尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定が出きる場面が増えるよう努めている。その時々に応じて、今、何を行いたいかわかっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のタイムスケジュールは基本的にケアプランに反映されているが、その日の要望や天候、体調によって変更している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の更衣、洗顔や入浴後の整髪等、身だしなみには注意を払っている。希望する方には、化粧水等も使用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備ができる方は準備を、片づけができる方は片づけを、テーブル拭きができる方はテーブル拭きを、などと役割分担ができています。	管理栄養士により、バランスやカロリー量等に配慮された献立が作成され、複合施設厨房にて調理されている。希望や自立支援に向けた役割分担や、家族との連携による外食、おやつ作りの企画・実行等が行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を作成している。また職員は、適切な水分量が確保できるよう日々記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践している。またご利用者個人の能力も把握し、介助している。また、必要な方には、訪問歯科診療も実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターン取得・実践に努めている。できるかぎりトイレでの排泄に取り組んでいる。	個別の排泄状況の把握に努め、パターンに応じたトイレ誘導や、姿勢保持・生活リハビリ等の機能維持・活用に向けた働きかけを介護計画の中に位置付け、排泄の自立を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態像に応じて、主治医と連携を取りながら、食品・内服薬等工夫している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則週3回の入浴が確保できるよう工夫している。その日のご入居者の気分も加味し、必要に応じて入浴時間や日付を変え、また入浴剤なども使用して入浴を楽しんで頂いている。	日常的に入浴を準備し、週に3回程度は入浴できるよう、その日の希望や体調、状況等に応じて、柔軟に対応している。湯船に浸からない場合にも、足指洗浄やシャワー浴を毎日実施されている方もおられる等、清潔保持に留意している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい時間に眠れるように支援しているが、基本的には日中は活動し、夜間に眠れるよう昼夜逆転がないようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携を取りながら、内服薬等の目的・用法・用量・副作用等把握している。また変化があれば、個別記録及び送りノート等を通じて状態を把握している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに役割を取り込んでおり、できることはやっけていただき、できないことは支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により買い物や散髪など個別の外出に対応しており、春や秋等天候のいい季節にはドライブなども企画し、その日の天候や体調を考慮に入れ取り組んでいる。	広大な敷地(約9千坪)にある他施設の季節行事を訪ねたり、散歩や外気浴は介護計画や行事予定表の中にも位置付けてられている。近隣の酒蔵開きや起業祭への参加は、恒例行事として位置付けられている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のその能力に合わせ、ご家族又はホームで金銭管理を行っている。小銭を管理しているご利用者は、散歩時に自動販売機などでジュースを購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族に電話をかける支援をしている。また、居室にも電話機が設置できる環境がある。年賀状等の作成の支援もしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分特に水回りの台所、便所、浴室は不潔になり易いので清掃には力を入れている。居間は屋間長く過ごす場所なので、室内温度は一定に保つよう調節し、常時テレビをつけっ放しにせず見る時間、静かな時間、BGMだけの時間をとっている。	広大な敷地内にある複合施設3階に、ゆとりある生活空間が確保されている。季節感に配慮された壁面構成や、食卓テーブルやソファ、椅子等、個別の居場所の確保にも工夫があり、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの座席位置は孤立をしなくて済む配置を考えている。但し、独りになることができる時間も確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅が使われていたものをそのまま持ち込んでいただくようにしており、新調はなるべくしないで済むように努めている。	洗面台が設置される各居室には、テレビや冷蔵庫等の家電品や、筆筒やテーブル、仏壇等が持ち込まれており、生活感がある。障子の設置により和の雰囲気演出され、日差しの調整やプライバシーの確保にも有効である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩、歩行器、車椅子など、その身体機能には差はあるが、自立して生活することが出来るよう、その室内環境に配慮しながら、見守りを行っている。		